科目名　「口腔機能発達学　」

学年	学期	科目責任者
3	前学期	野本　たかと

学習目標 (GIO)	口腔の機能には咀嚼，摂食嚥下，呼吸，言語，顔貌形成，感情表現から消化，免疫応答への関与に至るまで多くの機能が存在しており，全身の健康状態と密接な関係がある。口腔機能は元来備わっている機能ではなく，学習によって正常な発達を獲得するため全身状態や環境と深い関係がある。つまり口腔の機能は胎児期を経て出生してから小児期，成人に至るまで発達・変化し老年期には減退していく。これらの過程において何らかの問題が生じた場合には全身の健康状態にまで影響を及ぼすことから包括的な支援が必要となる。従って健康増進支援を担う医療人である歯科衛生士の社会的役割として，人のライフサイクルを通しての口腔機能の維持管理があることを十分に認識し，遂行に必要な知識および技術を修得する。
担当教員	野本たかと，三田村佐智代，遠藤眞美，猪俣英理，井樋加奈子
教科書	特になし。 必要に応じてプリントを配布する
参考図書	授業時に参考図書を示す
評価方法 （ＥＶ）	原則として定期試験(100 %)を評価点とする。定期試験は，各講義担当教員が出題し，その総合評価とする。なお，配点の比重は各講義担当の講義回数に比例する。
学生へのメッセージ オフィスアワー	全身の健康は口腔からであり，歯科衛生士の担うべき事は多い。口腔機能は人のライフサイクルを通して生命の維持から生活の質にいたるまでと幅広い範囲に影響を及ぼしていることを十分に理解し，歯科衛生士として将来口腔機能の適切な管理を通して健康の維持・増進に寄与できるような人材となるべきであること認識て受講してください。 オフィスアワー：月曜日～金曜日　8：30 ～ 17：30　質問があれば研究室に来てください。

日付	授業項目	授業内容	担当教員
第１回 4/5	口腔機能と全身機能	【授業の一般目標】 口腔機能において特に生命の維持に深く関与する摂食嚥下機能とそれに深く関与する発音機能の知識を修得することは口腔機能管理を担う歯科衛生士として重要であることを理解する 【行動目標（SBOs)】 １．ライフサイクルから見た口腔の機能についてその発達と変化について説明できる ２．口腔機能の全身への関与について説明できる ３．脳神経の発達と口腔機能との関連性を説明できる ４．ライフサイクルから見た口腔感覚の発達と変化について説明できる 【準備学習項目・時間】 口の機能について説明できる・60分 【学習方略（LS)】 講義を介して口腔管理にかかわる歯科衛生士として二大口腔機能である摂食嚥下機能と発音機能についての知識を修得することが健康増進の支援において重要であることを学ぶ	三田村

第２回 4/12	口腔機能の発達 ：音声言語機能 ・呼吸機能	【授業の一般目標】 摂食・嚥下機能に関与する発音機能と呼吸器について理解し，それらの発達および変化についての知識を修得する 【行動目標（SBOs）】 １．発声発語に関与する器官および発達について説明できる ２．呼吸に関与する器官および発達について説明できる ３．発音機能・呼吸機能と摂食嚥下機能との関連性について説明できる 【準備学習項目・時間】 口の機能について説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して口腔機能管理に携わる歯科衛生士として，摂食嚥下機能と音声言語および呼吸機能が深い関係にあることを学ぶ	三田村
第３回 4/19	口腔機能の 発達と障害 ：哺乳期	【授業の一般目標】 口腔機能の発達が段階を経て獲得されていくことを理解するために，胎児期から哺乳期にかけての口腔機能の正常発達およびこの期間に認められる障害についての知識を修得する 【行動目標（SBOs）】 １．胎児期における口腔機能の発達と状態を説明できる ２．哺乳期の口腔領域の器官形態の成長，口腔機能の発達と哺乳の関係性を説明できる ３．吸啜・呼吸・嚥下の関係性を説明できる ４．哺乳期における異常と障害を説明できる 【準備学習項目・時間】 ライフサイクルから見た口腔機能の発達と変化の概要を説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して口腔機能の獲得が学習によって獲得されていくことを知り，生理的機能異常のある場合には正常な口腔機能の獲得が困難になることを学ぶ	猪俣 （野本）
第４回 4/26	口腔機能の発達 ：離乳期	【授業の一般目標】 口腔機能の発達が段階を経て獲得されていくことを理解するために，離乳期の口腔機能の正常発達についての知識を修得する 【行動目標（SBOs）】 １．離乳期の顎顔面口腔領域器官の形態発達を説明できる ２．離乳期の口腔機能の特徴を説明できる ３．離乳期における口腔機能の発達と摂食機能の発達との関連性を説明できる ４．離乳期における身体機能の発達と摂食機能の発達との関連性を説明できる ５．離乳期に口腔機能および身体機能の発達と食物形態との関係性を説明できる 【準備学習項目・時間】 哺乳期の口腔機能の発達について説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して口腔機能の獲得が学習と口腔関連器官および身体機能の発達によって成り立つことを学ぶ	猪俣 （野本）

第５回 5/10	口腔機能の障害 ：離乳期	【授業の一般目標】 口腔機能の発達が段階を経て獲得されていくことを理解するために，離乳期における生理的機能の発達の遅れが正常な摂食嚥下機能の獲得に深く関与することを理解する 【行動目標（SBOs）】 １．離乳期にみられる顎顔面口腔領域における器官形態および機能異常を説明できる ２．離乳期における摂食嚥下機能の障を説明できる ３．離乳期における摂食嚥下機能障害と食物形態との関連を説明できる 【準備学習項目・時間】 離乳期における正常な口腔機能の発達および身体機能の発達を説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して顎顔面口腔領域器官の形態および機能異常や身体機能の発達障害が正常な口腔機能の獲得に深く関与することを学ぶ	猪俣 （野本）
第６回 5/17	口腔機能の発達 ：自食期	【授業の一般目標】 口腔機能の発達が段階を経て獲得されていくことを理解するために，自食期における正常な口腔機能の発達，関連器官の形態および身体機能の発達についての知識を修得する 【行動目標（SBOs）】 １．自食準備期の関連身体器官の形態および機能の正常発達を説明できる ２．自食準備期の顎顔面口腔領域の器官および形態の正常発達を説明できる ３．手づかみ食べ機能獲得期の関連器官の形態および機能の正常発達を説明できる ４．食具食べ機能獲得期の関連器官の形態および機能の正常発達を説明できる 【準備学習項目・時間】 離乳期の関連身体器官および口腔器官の形態・機能の正常発達を説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して正常な摂食嚥下機能の獲得に正常な口腔機能および身体機能の発達が深く関与していることを学ぶ	三田村
第７回 5/24	口腔機能の障害 ：自食期	【授業の一般目標】 口腔機能の発達が段階を経て獲得されていくことを理解するために，自食準備期ならびに自食期における生理的機能の発達の遅れが正常な摂食嚥下機能の獲得に深く関与することを理解する 【行動目標（SBOs）】 １．自食準備期の身体器官および顎顔面口腔領域器官の形態・機能異常を説明できる ２．自食期の摂食嚥下機能障害を説明できる ３．自食期の摂食機能障害と食物形態および食具の形態との関連性を説明できる 【準備学習項目・時間】 自食準備期・自食期の正常な身体機能および口腔機能の発達を説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して地域口腔保健活動の一環として障害児者の口腔機能管理に携わった際の課題の解決のために，自食期における障害についての基礎的知識を学ぶ	三田村

第８回 5/31	学童期と 口腔の健康	【授業の一般目標】 段階を経て得られる口腔機能の獲得が身体機能のみおならず環境要因も深く関与していることを知り，学童の健全な身体的精神的発達と健康と口腔との関連性について理解する 【行動目標（SBOs)】 １．学童期における正常な口腔器官の形態および機能の特徴をて説明できる ２．学童期における食の問題点を説明できる ３．学童期における食の問題とその要因を説明できる ４．学童期における口腔内環境と健全な身体・精神発達との関連性を説明できる 【準備学習項目・時間】 学童期までの正常な身体および口腔器官の形態・機能の発達を説明できる・60分 【学習方略（LS)】 講義を介して学童期の食の問題点を認識することで口腔機能と口腔内環境が全身の健全な発達と健康に関与していることを学ぶ	猪俣 (野本)
第９回 6/7	思春期と 口腔の健康	【授業の一般目標】 段階を経て得られる口腔機能の獲得が身体機能のみならず環境要因にも深く関与していることを知り，思春期における健全な身体的精神的発達と口腔との関係性について理解する 【行動目標（SBOs)】 １．思春期の正常な口腔器官の形態および機能の特徴を説明できる ２．思春期における食の問題点を説明できる ３．思春期における食の問題点とその要因を説明できる ４．思春期における口腔内環境と健全な身体・精神発達との関連性を説明できる 【準備学習項目・時間】 私憤期までの正常な身体および口腔器官の形態および機能の発達を説明できる・60分 【学習方略（LS)】 講義を介して思春期の食の問題点を認識することで口腔機能と口腔内環境が全身の健全な発達と健康に関与していることを学ぶ	三田村
第１０回 6/14	成人期・老年期における口腔機能	【授業の一般目標】 中途障害や加齢による生理的機能の低下により一度獲得した口腔機能の低下もしくは喪失の状態を把握し，健康増進支援において口腔機能の維持向上が重要であることを理解する 【行動目標（SBOs)】 １．中途障害に認められる口腔機能の特徴を説明できる ２．加齢による生理的機能の低下を説明できる ３．高齢者に認められる口腔機能の特を説明できる ４．口腔機能の低下もしくは喪失と全身の健康との関連性を説明できる 【準備学習項目・時間】 正常な口腔機能の獲得について説明できる・60分 【学習方略（LS)】 講義を介して一度獲得した口腔機能が低下もしくは喪失した場合に起こりうる全身への影響とその維持向上の重要性について学ぶ	遠藤

第１１回 6/21	食育　1	【授業の一般目標】 2005年に食育基本法が成立された意義を知り，「食べること」が生命の維持だけでなく生理的，心理的，社会的，文化的に重要な意味を持つことを理解する 【行動目標（SBOs）】 １．食育についての概要を説明できる ２．食育が推進されてきた原因と意義について説明できる ３．食育に関する現状と今後の発展について説明できる 【準備学習項目・時間】 現在の日本における食の問題点と健康との関係性について説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して口腔機能の管理は口腔に関する健康のみならず全身の健康から社会的背景や環境にも関与することを学ぶ	遠藤
第１２回 6/28	食育　2	【授業の一般目標】 口腔機能の一つである「食べる」ことが生理的，心理的，社会的，文化的意義を持ち合わせており，地域医療に貢献する歯科衛生士として知育，徳育及び体育の基礎となる食育において果たすべき役割を理解する 【行動目標（SBOs）】 １．口腔管理を担う衛生士として食育における役割について説明できる ２．食育支援を担う衛生士として他業種との連携の重要性について説明できる 【準備学習項目・時間】 現在の日本における食の問題点と健康との関係性について説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して口腔機能の管理は口腔に関する健康のみならず全身の健康から社会的背景や環境にも携わることであることを学ぶ	遠藤
第１３回 7/5	口腔機能と その管理	【授業の一般目標】 全身疾患との関連性からみた口腔機能管理の重要性について理解する 【行動目標（SBOs）】 １．口腔機能と全身疾患の関連について説明できる ２．口腔機能の維持と栄養管理について説明できる ３．フレイル，サルコペニア，ロコモティブシンドロームと口腔機能の関連について説明できる ４．その他口腔内状態に起因する合併症について説明できる 【準備学習項目・時間】 口腔機能について基本的事項を説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して口腔ケアが単なる口腔清掃管理のみならず口腔機能の維持向上でもあることを知り、口腔機能の発達と状態に合わせたケアをすることが健康増進支援につながることを学ぶ	三田村
第１４回 7/12	口腔機能管理 ：歯科衛生士の役割	【授業の一般目標】 口腔機能管理における歯科衛生士としての役割を理解し，口腔機能の維持向上の支援方法を修得する 【行動目標（SBOs）】 １．口腔ケア（器質的，機能的）について説明できる ２．個人，集団における口腔ケア方法の実践的指導を説明できる ３．口腔ケアについて歯科衛生士としての治療計画を衛生過程で説明できる 【準備学習項目・時間】 ライフステージごとの口腔機能の特徴について説明できる・60分 【学習方略（LS）】 講義を介して口腔管理を担う歯科衛生士として一度低下もしくは喪失した口腔機能の維持管理における実際の支援方法について学ぶ	井樋 （野本）

第１５回 7/19	口腔機能管理における歯科衛生士の役割 ：支援体制	【授業の一般目標】 地域口腔保健活動に従事する歯科衛生士として口腔機能の維持管理を担うことの重要性を理解し，遂行するために必要な知識を修得する チーム医療医療連携リスク管理 【行動目標（SBOs)】 １．口腔機能の維持向上に従事するうえで生じるリスクについて説明できる ２．ライフサイクルを通した人の生活環境および社会環境について説明できる ３．口腔機能の維持向上に携わる業種について説明できる ４．口腔機能の維持向上における医療連携の重要性について説明できる 【準備学習項目・時間】 ライフサイクルからみた口腔機能の発達と変化について理解し，全身の健康増進支援の観点からみた口腔ケアの重要性について説明できる・60分 【学習方略（LS)】 講義を介して将来従事するであろう地域口腔保健活動での歯科衛生士として重要な役割である口腔機能維持管理においてリスク管理と医療連携の重要性について学ぶ	野本